

リフレクションと対話を通した 教師の成長

教師の仕事に関して、満たすべき項目を定めてその達成を促したり、評価と助言のやりとりをしたりすることが、実践の改善の近道なのでしょうか。それとは違う可能性に、「リフレクション」と「対話」をキーワードにして迫ります。

本公開研修会は、現職日本語教師、教師教育者、日本語教師を目指す方々を対象としていますが、興味のある方でしたらどなたでも参加できます。



日 時 2026年2月7日(土) 13:00～16:15

会 場 Meeting Space AP 茶屋町
大阪府大阪市北区茶屋町1-27
ABC-MART梅田ビル8F

参 加 費 無料



第1部 13:00～14:30 「誤解がいっぱい！？ リフレクション」

「リフレクション」はさまざまな分野で注目を集めていますが、その分、安易な受け取られ方をして、むしろ「リフレクション」概念が批判していた当のものに陥っている例も見られます。「リフレクション」が何を提起するものか、そこにどんな意義があるのかを考えます。

第2部 14:45～16:15 「リフレクションを深める対話とその体験」

「対話」の仕方というのは、手順を示されればそれで間違いなく行える、といった類いのものではありません。こんなふうにやりとりするなかで深まっていくのかといった感覚が大事になります。持ち寄った事例をもとに交流を行って、「対話」のあり方について考えます。

講師：渡辺貴裕先生（東京学芸大学）

【講師略歴】東京学芸大学教職大学院准教授。専門は教育方法学、教師教育学。兵庫県出身。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程満期退学。演劇的手法を用いた学習の可能性を現場の教員と共に探究する「学びの空間研究会」を主宰。演劇教育・ドラマ教育関連の業績に関して、日本演劇教育連盟より演劇教育賞、全国大学国語教育学会より優秀論文賞、日本教育方法学会より研究奨励賞を受賞。授業や模擬授業の「対話型検討会」の取り組みなど教師教育分野でも活躍。著書として『なってみる学び－演劇的手法で変わる授業と学校』（共著、時事通信出版局）、『小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ 授業づくりの考え方』（単著、くろしお出版）など。

